

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成22年8月12日(2010.8.12)

【公開番号】特開2008-24927(P2008-24927A)

【公開日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【年通号数】公開・登録公報2008-005

【出願番号】特願2007-182658(P2007-182658)

【国際特許分類】

C 0 9 B	45/14	(2006.01)
C 0 9 B	45/22	(2006.01)
C 0 9 B	67/20	(2006.01)
C 0 9 D	11/00	(2006.01)
C 0 9 D	17/00	(2006.01)
G 0 2 B	5/20	(2006.01)
G 0 2 B	5/22	(2006.01)

【F I】

C 0 9 B	45/14	B
C 0 9 B	45/22	
C 0 9 B	67/20	E
C 0 9 B	67/20	K
C 0 9 D	11/00	
C 0 9 D	17/00	
G 0 2 B	5/20	1 0 1
G 0 2 B	5/22	

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月25日(2010.6.25)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

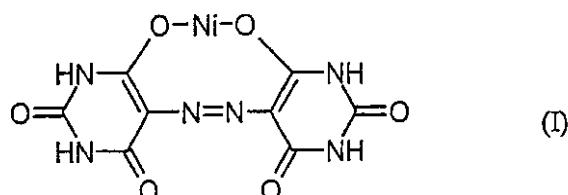
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ゲストとしてメラミンを含む、式(I)

【化1】



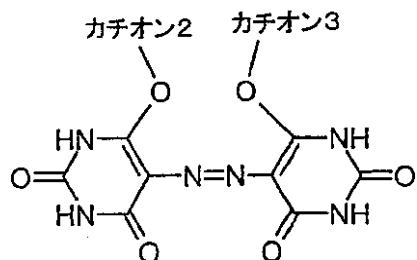
またはそれらの互変異性体構造およびそれらの水和物の顔料を調製するための方法であつて、

アゾバルビツル酸モノ-カチオン塩(II)およびアゾバルビツル酸ジ-カチオン塩(III)

## 【化2】



(II)



(III)

[式中、カチオン1、カチオン2およびカチオン3は、 $H^+$ ではなく、カチオン1、カチオン2およびカチオン3は、互いに独立して、任意の所望の一価のカチオンであるか、または1個の正電荷に相当する任意の所望の多価カチオンの一部分である]の混合物をニッケル化合物およびメラミンと反応させることを特徴とする方法。

## 【請求項2】

請求項1に記載の方法によって得られる顔料。

## 【請求項3】

印刷着色剤、ディステンパー着色剤またはバインダー着色剤を製造するための、合成、半合成または天然の高分子化合物、特にポリ塩化ビニル、ポリスチレン、ポリアミド、ポリエチレンもしくはポリプロピレンの原料着色のための、および天然、再生もしくは人造繊維、例えばセルロース、ポリエステル、ポリカーボネート、ポリアクリロニトリルもしくはポリアミド繊維などの原糸染色のための、およびまた、布地および紙の印刷のための請求項2に記載の顔料の使用。

## 【請求項4】

少なくとも1種の請求項2に記載の顔料と、少なくとも1種の分散剤とを含む顔料調製物。

## 【請求項5】

少なくとも1種の請求項2に記載の顔料と、少なくとも1種の光開始剤と、光硬化モノマーとを含むフォトレジスト。

## 【請求項6】

少なくとも1種の請求項2に記載の顔料を含むカラーフィルター。